#### 芝浦工業大学 数理学研究サークル 研究発表会

勾配,発散,回転の関係について

BV24041 内田晴

芝浦工業大学 システム理工学部 数理学科

2025年5月18日

ベクトル解析とは

勾配

発散

Diff

勾配,発散,回転の 思係について

1 ベクトル解析とは

2 勾配

3 発散

4 回転

5 勾配,発散,回転の関係について

1 ベクトル解析とは

2 勾配

3 発散

4 回転

5 勾配,発散,回転の関係について

## まずベクトルとは

今回考えるベクトルは、大きさと向きを持つ量のことである.



内田晴

ベクトル解析とは

勾配

発散

ना क्षेट्र

7配,発散,回転の

内田晴 (芝浦工業大学)

発表番号:未定

### ベクトル解析とは

ベクトルの微分や積分について考える学問のこと.

力学,流体力学,電磁気学など幅広い分野に応用される学問.

ベクトル解析とは

勾盾

発散

नामह

回転

勾配,発散,回転の

関係について

1 ベクトル解析とは

2 勾配

3 発散

4 回転

5 勾配,発散,回転の関係について

### スカラー場とは

空間のある領域内の各点 (x, y, z) において,

スカラー関数 f(x,y,z) が定まっているとき,

この領域をfのスカラー場という.

ベクトル解析とは

勾配

微

抽完

勾配,発散,回転の

関係について

関係について

スカラー場を考える。

例に、なめらかな地形を考える.

地図の上で、点Pから水平x方向に動かし、Xまで進み、

水平y方向に動かし、Yまで進み、点Qに到達する.

その後、地表では点Qから点Sまで上がる.

発表番号:未定

内田晴

ベクトル解析とは

勾配

発散

ता क्षेट्र

7配,発散,回転の

P の座標 (x,y) に対し Q の座標は  $(x+\Delta x,y+\Delta y)$  となる.

x 方向に  $\Delta x$  進むときは y は一定に保たれるから

X における地面の高まりを  $XA = h_1$  とすると,

$$h_1 = \frac{\partial f}{\partial x} \Delta x$$

である.

発表番号:未定

 $\Delta x$ ,  $\Delta y$  は十分小さいとしているので.

Pの近くで地表面は平面 PASB とみなしてよく、

x 方向に  $\Delta x$  だけ進み、y 方向に  $\Delta y$  だけ進んで Q に達するときの高まり QS

は.

XQ を AR まで上げ、YR を BS まで上げる高さ  $h_1 + h_2$  に等しい.

その差は

$$\Delta f = f(x + \Delta x, y + \Delta y) - f(x, y) = h_1 + h_2$$

従って、PからSへ斜面の坂を登るときの高さは

$$\Delta f = \frac{\partial f}{\partial x} \Delta x + \frac{\partial f}{\partial y} \Delta y$$

内田晴

ベクトル解析とは

勾配

卷散

脏层

习配,発散,回転の

12/51

# $\frac{\partial f}{\partial x}$ , $\frac{\partial f}{\partial y}$ を x,y 成分とするベクトルを**勾配** (グラジェント, gradient) と呼ぶ.

$$\mathsf{grad} f = \left(\frac{\partial f}{\partial x}, \frac{\partial f}{\partial y}\right)$$

などと書き表す.

そのスカラー場をポテンシャルといい、その力を保存力という.

一般に、ポテンシャル $\phi(x,y,z)$ で与えられたとき、

場所 (x, y, z) にある質点に働く力 F は、

$$m{F} = -
abla \phi \ \left(
abla = \left(rac{\partial}{\partial x}, rac{\partial}{\partial y}, rac{\partial}{\partial z}
ight)
ight)$$

発表番号:未定

で与えられる。

勾配

太陽が原点にあるとき、これからのrの距離にある

単位質量の物体(試験体)のポテンシャルは、

$$\phi(r) = -G\frac{M}{r} \ (r = \sqrt{x^2 + y^2 + z^2})$$

である. (M は太陽の質量, G は万有引力定数)

### Fを計算してみよう.

$$\begin{split} \frac{\partial \phi}{\partial x} &= \frac{GM}{r^2} \cdot \frac{x}{r} = \frac{GM}{r^3} x \\ \frac{\partial \phi}{\partial y} &= \frac{GM}{r^2} \cdot \frac{y}{r} = \frac{GM}{r^3} y \\ \frac{\partial \phi}{\partial z} &= \frac{GM}{r^2} \cdot \frac{z}{r} = \frac{GM}{r^3} z \end{split}$$

$$\begin{aligned} \boldsymbol{F} &= |-\nabla \phi| = \sqrt{\left(\frac{GM}{r^3}x\right)^2 + \left(\frac{GM}{r^3}y\right)^2 + \left(\frac{GM}{r^3}z\right)^2} \\ &= \frac{GM}{r^3}\sqrt{x^2 + y^2 + z^2} \\ &= \frac{GM}{r^2} \end{aligned}$$

発表番号:未定

勾配

**能散** 

at dett

勾配,発散,回転の

関係について

い西に

発散

ना बंद

勾配,発散,回転の

関係について

関係について

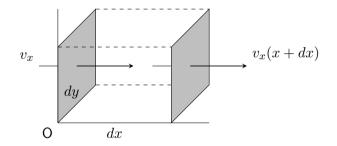
1 ベクトル解析とは

2 勾配

3 発散

4 回転

5 勾配,発散,回転の関係について



ベクトル解析とは

この $v_x$ は位置によって変化する量なので、

勾置

原点から dx だけ進んだ位置の速さは、 $v_x(x+dx)$  となる.

発散

ここで.

回転

勾配,発散,回転の

関係について

$$v_x(x+dx) = v_x + \frac{\partial v_x}{\partial x} dx$$

となる.

$$v_x(x+dx)dy - v_xdy = \frac{\partial v_x}{\partial x}dxdy$$

である. 同様に, y 方向の単位時間の流出量は,  $\frac{\partial v_y}{\partial y} dxdy$ 

従って、合計の流出量は、

$$\left(\frac{\partial v_x}{\partial x} + \frac{\partial v_y}{\partial y}\right) dxdy = q(x, y) dxdy$$

流速 
$$\mathbf{v}(x,y,z) = (v_x, v_y, v_z)$$
 とすると,

$$\left(\frac{\partial v_x}{\partial x} + \frac{\partial v_y}{\partial y} + \frac{\partial v_z}{\partial z}\right) dx dy dz = q(x, y, z) dx dy dz$$

となり、小さな領域 dxdudz 内の水の湧出量と等しい。

$$\mathsf{div}\boldsymbol{v} = \frac{\partial v_x}{\partial x} + \frac{\partial v_y}{\partial y} + \frac{\partial v_z}{\partial z}$$

と書き、これをベクトル場vの発散(ダイバージェンス, divergence)という.

演算子 ▽ を用いれば、発散は、

$$\mathsf{div} \boldsymbol{v} = \nabla \cdot \boldsymbol{v} = \frac{\partial v_x}{\partial x} + \frac{\partial v_y}{\partial y} + \frac{\partial v_z}{\partial z}$$

とかける.

発散

## 目次

1 ベクトル解析とは

2 勾配

3 発散

4 回転

5 勾配,発散,回転の関係について

ベクトル解析とは

可配

発散

ना बंद

31非云

勾配,発散,回転の

関係について

ベクトル場  $\mathbf{A} = (A_x, A_y, A_z)$  に対して、ベクトル

$$\mathsf{rot}m{A} = \left(rac{\partial A_z}{\partial y} - rac{\partial A_y}{\partial z}
ight)m{i} + \left(rac{\partial A_x}{\partial z} - rac{\partial A_z}{\partial x}
ight)m{j} + \left(rac{\partial A_y}{\partial x} - rac{\partial A_x}{\partial y}
ight)m{k}$$

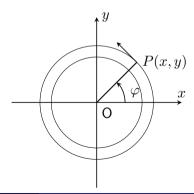
をAの回転(ローテイション,rotation)と呼ぶ.

$$\mathsf{rot} oldsymbol{A} = 
abla imes oldsymbol{A} = egin{vmatrix} oldsymbol{i} & oldsymbol{j} & oldsymbol{k} \ rac{\partial}{\partial x} & rac{\partial}{\partial y} & rac{\partial}{\partial z} \ A_x & A_y & A_z \end{bmatrix}$$

## 回転の意味:2次元で考える

剛体がxy面内で回転するとし、その角速度を $\omega$ として、

剛体上の点 P(x,y) の速度を考える.



内田晴

ベクトル解析とは

勾配

発散

回転

勾配,発散,回転の

その速度  $\mathbf{v} = (v_x, v_y)$  は,

$$v_x = (r\cos\varphi)_t = -\omega r\sin\varphi = -\omega y$$

$$v_y = (r\sin\varphi)_t = \omega r\cos\varphi = \omega x$$

(1)

回転

である。

内田晴 (芝浦工業大学)

 $=2\omega \mathbf{k}$ 

 $\mathsf{rot} oldsymbol{v} = 
abla imes oldsymbol{v} = egin{bmatrix} oldsymbol{i} & oldsymbol{j} & oldsymbol{k} \ rac{\partial}{\partial x} & rac{\partial}{\partial y} & rac{\partial}{\partial z} \ -\omega y & \omega x & 0 \ \end{pmatrix}$ 

発表番号:未定

 $= -\frac{\partial}{\partial z}(\omega x)\mathbf{i} + \frac{\partial}{\partial z}(\omega y)\mathbf{j} + \left\{\frac{\partial}{\partial x}(\omega x) + \frac{\partial}{\partial y}(\omega y)\right\}\mathbf{k}$ 

2025年5月18日

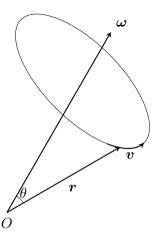
明友について

関係について

剛体の 3 次元空間における回転は、角速度ベクトル $\omega$  で与えられる.

実際、剛体が $\omega$ を軸として回転するとき、点rの速度の大きさは

$$v = \omega r \sin \theta = |\boldsymbol{\omega} \times \boldsymbol{r}|$$



勾

発散

回転

勾配,発散,回転の

関係について

$$m{v} = m{\omega} imes m{r} = egin{vmatrix} m{i} & m{j} & m{k} \ \omega_x & \omega_y & \omega_z \ x & y & z \end{bmatrix}$$

$$= (\omega_y z - \omega_z y) \mathbf{i} + (\omega_z x - \omega_x z) \mathbf{j} + (\omega_x y - \omega_y x) \mathbf{k}$$

ベクトル解析とは

可配

そ散

回転

勾配,発散,回転の

関係について

となる.

発表番号:未定

$$\frac{\partial}{\partial y}$$

$$\frac{\partial}{\partial t}$$

$$rot \mathbf{v} = \begin{vmatrix} \mathbf{i} & \mathbf{j} & \mathbf{k} \\ \frac{\partial}{\partial x} & \frac{\partial}{\partial y} & \frac{\partial}{\partial z} \\ w_y z - w_z y & w_z x - w_x z & w_x y - w_y x \end{vmatrix}$$

$$=2\omega_x \boldsymbol{i} + 2\omega_y \boldsymbol{j} + 2\omega_z \boldsymbol{k}$$

すなわち, 
$$rot v = 2\omega$$
 となる.

回転

• rot*v* の大きさは、回転の角速度の 2 倍に等しい.

• rotv の向きは、回転軸の向きを向いている.

勾配,発散,回転の

関係について

1 ベクトル解析とは

2 勾配

3 発散

4 回転

5 勾配,発散,回転の関係について

div grad
$$\phi$$
 = div  $\left(\frac{\partial \phi}{\partial x}, \frac{\partial \phi}{\partial y}, \frac{\partial \phi}{\partial z}\right)$   
=  $\frac{\partial}{\partial x} \left(\frac{\partial \phi}{\partial x}\right) + \frac{\partial}{\partial y} \left(\frac{\partial \phi}{\partial y}\right) + \frac{\partial}{\partial z} \left(\frac{\partial \phi}{\partial z}\right)$   
=  $\frac{\partial^2 \phi}{\partial x^2} + \frac{\partial^2 \phi}{\partial y^2} + \frac{\partial^2 \phi}{\partial z^2}$ 

内田晴

ベクトル解析とは

幻西

発散

前辰

勾配,発散,回転の 関係について

$$\nabla^2 = \frac{\partial^2}{\partial x^2} + \frac{\partial^2}{\partial y^2} + \frac{\partial^2}{\partial z^2}$$

はラプラス (Laplace) 演算子, あるいはラプラシアンと呼ばれる.

よって,

$$\operatorname{div} \operatorname{grad} \phi = \nabla \cdot \nabla \phi = \nabla^2 \phi$$

と表すことができる.

内田晴

ベクトル解析とは

勾酢

発散

脏灵

勾配,発散,回転の

関係について

こ私りことができる

$$\nabla^2 \phi = 0$$

をラプラス方程式といい、これを満たす関数を調和関数という.

$$\frac{\partial^2 \varphi}{\partial t^2} = c^2 \nabla^2 \varphi$$

は波動方程式, c は波の速さである.

 $\phi(x,y,z)$  はスカラー場とするとき、ベクトル grad $\phi$  の回転を調べると、

まず,x成分について考える.

$$(\text{rot } \text{grad}\phi)_x = \frac{\partial}{\partial y} \left( \frac{\partial \phi}{\partial z} \right) - \frac{\partial}{\partial z} \left( \frac{\partial \phi}{\partial y} \right)$$
$$= 0$$

内田晴

ベクトル解析とは

勾配

発散

回帳

勾配,発散,回転の

関係について

rot grad
$$\phi = \nabla \times \nabla \phi = 0$$

このことから、ベクトル場vがいたるところで

$$rot \mathbf{v} = 0$$

を満たすとき,このベクトル場を**渦なし場**という.

内田晴

ベクトル解析とは

勾配

散

康

勾配,発散,回転の

関係について

関係について

また,

$$\mathbf{v} = -\mathrm{grad}\phi$$

であるような関数  $\phi(x,y,z)$  が存在する. この  $\phi$  を**速度ポテンシャル**という.

内田晴 (芝浦工業大学)

点電荷eによる電場Eは

$$\boldsymbol{E} = K \frac{e}{r^2} \frac{\boldsymbol{r}}{r}$$

で与えられる.

$$(\operatorname{rot} \mathbf{E})_{x} = eK \left\{ \frac{\partial}{\partial y} \left( \frac{z}{r^{3}} \right) - \frac{\partial}{\partial z} \left( \frac{y}{r^{3}} \right) \right\}$$
$$= eK \left( -\frac{3zy}{r^{5}} + \frac{3yz}{r^{5}} \right) = 0$$

他の成分についても同様. したがって

$$rot \mathbf{E} = 0$$

内田晴

ベクトル解析とは

可配

卷散

前根

勾配,発散,回転の

関係について

関係について

電荷が多数あっても E は加え合わされるから

rot E = 0 は静雷場について一般に成り立つ.

したがって静電場は渦なしであり、ポテンシャル

をもち一般に

$$\boldsymbol{E} = -\mathrm{grad}\phi$$

と表せる.

### 発散のない場

ベクトル場 B がいたるところで

$$\operatorname{div} \boldsymbol{B} = 0$$

を満足するとき、これを**発散のない場**といい、適当なベクトル場 A を用いて

$$B = rot A \tag{2}$$

勾配,発散,回転の

関係について

と書ける.

発表番号:未定 2025年5月18日 内田晴 (芝浦工業大学) 45 / 51

div rot
$$\mathbf{A} = \frac{\partial}{\partial x} \left( \frac{\partial A_z}{\partial y} - \frac{\partial A_y}{\partial z} \right) + \frac{\partial}{\partial y} \left( \frac{\partial A_x}{\partial z} - \frac{\partial A_z}{\partial x} \right) + \frac{\partial}{\partial z} \left( \frac{\partial A_y}{\partial x} - \frac{\partial A_x}{\partial y} \right) = 0$$

となる。ベクトルポテンシャルは一義的にはきまらない.

φを任意のスカラーとするとき

$$\mathbf{A}' = \mathbf{A} + \operatorname{grad}\phi$$

も B = rot A' を満たすからである。

#### 具体例:回転運動

回転運動の流れ (1) は

$$\mathbf{v} = (-\omega y, \omega x, 0) = \text{rot} \mathbf{A}$$

ただし.

$$\boldsymbol{A} = \left(0, 0, -\frac{\omega}{2}(x^2 + y^2)\right)$$

と書ける.

# また例えば $\phi = \frac{\omega}{2}(x^2 + y^2)z$ として

$$\mathbf{A}' = (\omega xz, \omega yz, 0)$$

とすれば
$$\mathbf{v} = \mathrm{rot} \mathbf{A}'$$

関係について

 $\mathbf{B} = \text{rot}\mathbf{A} + \text{grad}\phi$ 

として与えられることが示される。これがヘルムホルツの定理という。

湧き出しのない場はベクトルポテンシャルの回転で与えられること

温なしの場はスカラーポテンシャルの勾配で与えられ.

がわかったが、一般のベクトル場はこれらの和

内田晴 (芝浦工業大学)

発表番号:未定

## 参考文献

理工系数学入門コース3 ベクトル解析 戸田盛和著

内田晴

ベクトル解析とは

勾酢

養散

Tale:

勾配,発散,回転の

関係について

発表番号:未定